

営農情報(令和7年1月)

作成・監修 勝浦町農業振興推進班

■温州みかん

令和6年産みかんのうち、早生系品種は9月の好天で良好な仕上がりとなりました。晩生系品種は、秋季の気温が高く着色遅れとなり、また降雨日数も多かったため果実肥大は進みました。果実品質は、糖度は平年並みですが、酸度がかなり低めなため、貯蔵性に心配があります。(11/13-14町内調査結果 13戸平均 糖度10.4 酸度0.71)

◇樹体管理

樹勢回復と耐寒性向上のため、暖かい日を選んで窒素(尿素300倍液)の葉面散布を7～10日おきに、3回程度行う。

◇貯蔵管理

貯蔵庫の点検を定期的に行い、腐敗果は見つけ次第除く。庫内の温湿度に注意し、換気は外気温と貯蔵庫内温度の差が少ない朝夕に行い、好適な庫内環境を維持する。

◇土壌改良の準備

堆肥や苦土石灰等の資材を準備しておく。

土壌のpHや養分の過不足を改善するため、2～3年ごとに土壌分析を行う。

(土壌分析の依頼方法は、別刷りの広報折り込みを参照のこと。)

【1月の病害虫防除】

か き

時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	使用回数
休眠期 (発芽前)	カイガラムシ類	ハーベストオイル	50倍	—	—

う め

休眠期 (発芽前)	越冬害虫	石灰硫黄合剤	10倍	—	—
	縮葉病		8倍	—	—

キウイフルーツ

1月	カイガラムシ類	機械油(乳)95	14倍	—	—
----	---------	----------	-----	---	---

■厳寒期の野菜の管理について

寒さが強まり、気温が下るにつれて、作物の生育は緩やかになるとともに、季節風により倒伏や低温による生育障害、霜害が起りやすくなるので、被覆資材の活用や適切な対策をとることが大切です。

◇被覆資材を用いる方法

1. プラスチックフィルム

農ビ、農ポリ、酢ビ等がある。

支柱を立てて、トンネル状に覆う。密閉すると日中は真冬でも高い温度になるので、発芽・生育促進や、とう立ち防止(だいこん、にんじん等)に役立つが、注意しないと高温障害が出ることもあるので、トンネル内を25度以上にしないように換気する必要がある。

2. 不織布(ふしょくふ)

合成繊維を織らないで布のようにしたもの。白色で軽く、通気性、透明性があり、「パオパオ」などの商品名で販売されている。

プラスチックフィルムほど保温性は高くないが、通気性があるため昼間高温にならず、換気の手間が省ける。また支柱を使わずべた掛けすることも出来る。

◇作物別の対策

- ・ほうれんそう、こまつな・・・霜や風が当たると葉が傷むので、不織布のべたがけで防寒する。
- ・はくさい、カリフラワー・・・外葉を包むようにひもで縛っておく。
- ・だいこん、にんじん・・・首の部分が隠れるように土寄せを行う。
- ・ねぎ・・・株元に土寄せするか、もみ殻をかける。
- ・エンドウ・・・笹竹や支柱を立てて稲わらをぶら下げる。

【お知らせ】

■1日農業バイトアプリ「daywork」の紹介

・みかん収穫のアルバイト募集にバイトアプリはいかがでしょうか？

1日単位のスキマ時間で働きたい人が多く登録するバイトアプリです。アプリのインストール、アカウントなどの作業は必要ですが、働きたい人と直接やりとりをすることができます。

「短期間だけ」「仕事が休みの時だけ」「農業体験に」といった理由でアルバイトをしたい方は結構います。詳しい登録方法については右のQRコードからお進みください。



■品評会のお知らせ

隔年で実施している「勝浦みかん品評会」を、令和7年2月3日(月)～4日(火)に行います。

詳細は、後日、新聞折り込み等によりご案内します。

出品物は無償提供となりますが、出品と引き換えに、相応の参加賞を進呈します。

表彰は徳島県知事賞含め、8点の表彰があり、入賞された方には2月4日の勝浦みかん活性化大会において表彰状および記念品を授与します。

■勝浦みかん活性化大会の開催について

令和7年2月4日(火)13時から、勝浦町農村環境改善センターで、勝浦みかん活性化大会を開催します。

今回の大会では、近年関心が高まっている、「ドローンによるみかんの防除」をメインテーマとして、記念講演を行います。講師には、愛媛県宇和島市のかんきつ農家(果樹園地2ha)の平石吉三郎氏を予定しています。

平石氏は、70代になるにもかかわらず、個人的にドローンを導入し、ドローンだけによる通年防除を達成しており、これから本格的にドローン防除を活用していく我々にとって、教わるべきことが多いのではないかと考えています。

また、現在町内で貯蔵みかんの腐敗防止効果を期待して実験中の「iRフレッシュ」の展示も行います。「iRフレッシュ」は、四国電力グループの四国総合研究所が開発した近赤外線を照射することで蒸散を抑制し青果物の鮮度を保持する技術であり、貯蔵病害の減少が期待できます。既に、早生みかんでは効果が確認され、愛媛県など主要産地の選果場にて導入されていますが、貯蔵みかんでの研究が無かったため、勝浦町で実験することになりました。この機会にその装置も皆様に見てもらいたいと思っています。



＜お問い合わせ先＞

勝浦町農業振興推進班

勝浦町農業振興課42-1505 JA農業振興戦略実践課088-538-7180 徳島農業支援センター088-626-8768